

令和3年度第1回我孫子市平和事業推進市民会議 会議概要

1. 開催日時

令和3年6月6日（日曜日）13時00分から15時00分

2. 開催場所

我孫子市役所議会棟1階 A・B会議室

3. 出席者

(委員)

北嶋委員、桑原委員、見城委員、小山委員、早乙女委員、高須委員、中江委員、長塚委員、根本委員、原委員、肥後委員、的山委員、靱山委員、山田恒久委員、山田典子委員

(事務局)

企画課：高見澤課長、寺田主幹、大山主査長、稲垣主任、岡村主任

4. 傍聴人

なし

5. 議題

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 委員及び事務局紹介
- 4 会長及び副会長の互選
- 5 我孫子市平和事業について
- 6 令和3年度事業について
- 7 その他
- 8 閉会・写真撮影

6. 議事

1 開会

高見澤企画課長より開会のあいさつを行った。

2 委嘱状の交付

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、机上にて交付した。

(委員の任期：令和3年6月6日～令和5年3月31日)

3 委員及び事務局紹介

委員及び事務局より自己紹介を行った。

4 会長及び副会長の互選

我孫子市平和事業推進市民会議設置規則第4条第1項の規定により、委員の互選によって会長及び副会長を決めるにあたり、立候補や推薦がなかったため、事務局案を提示し、委員の承認をもって、会長は北嶋委員、副会長は原委員に決定した。

5 我孫子市平和事業について

(1) 平和事業

(2) 我孫子市平和事業推進市民会議

(3) 令和2年度事業実績

- ・被爆75周年我孫子市平和祈念式典
- ・手賀沼とうろう流し
- ・平和の集い
- ・広報あびこ2020年8月16日号1面
- ・「国際青年平和フォーラム」への歴代派遣中学生の参加

【事務局】

- ・(1)～(3)について、事務局から説明した。
- ・原副会長より、「国際青年平和フォーラム」について報告があった(報告概要は別紙)。

【委員からの意見】

- ・平和活動をしている若者の発表として、全国から2組のうちの1組が我孫子市ということにとっても驚いた。広島や長崎で若い人が数多く活動をしてい

るのは当たり前とも言えるが、原さんが言ってくれたように、我孫子でこういう活動をしているということが、全国的なイベントの中でもインパクトのあることだと感じた。

- ・広島、長崎で活動していた大学3年生の若者2人が、東京で新しく平和活動をするための団体を最近立ち上げたということをニュースで知った。広島、長崎から離れたところ、とりわけ東京で活動したいという彼らのような人にも、何か支援をしていけたら良いということを考えていて、それを思い出しながら原さんの報告を伺った。

6 令和3年度事業について

(1) 中学生広島派遣

【事務局】

- ・8月9日～11日の広島派遣の実施予定について説明し、引率として参加する委員1名を募り、希望者は6月15日までに事務局へ連絡いただくよう依頼した。
- ・7月21日の事前説明会に派遣中学生のOB・OGの参加を依頼し、立候補により高須委員、根本委員の2名に決定した。

(2) リレー講座

【事務局】

令和3年度のリレー講座の実施予定について説明した。

【委員からの意見】

- ・新型コロナの感染拡大の状況が明ければ、市民会議委員も皆参加できると良い。授業の45分間だけでも参加してもらい、子どもたちの反応を見てもらうだけでも、市民会議の活動にプラスになると考える。
- ・現状で実施見合わせとなっている学校側の回答を、分かる範囲で教えてほしい。
⇒(事務局)布佐南小と湖北台東小については、年度内の実施は見合わせるとのこと。残りの3校については回答がないが、学校の希望に沿う形で実施ができれば良いと考える。
- ・昨年度、今年度ともに未実施の学校については、こちら側にも要因があるのか等、探っていく必要があるのではないかと考える。授業日数の都合もあるだろうが、出来ることなら市内の同学年で共通した内容を受講していただきたいと思う。

⇒(事務局) 回答のないところも含め、今後に繋がるように理由を確認して
いきたい。

- ・戦後 70 年の拡大市民会議の時にリレー講座を企画運営する委員になり、教師の経験を活かせると思って携わってきて、今では被爆者としての使命とも考え、今後も続けていきたいと思っている。続けている中で、学校間で意識の差があるようにも感じる。しかし多くの学校が、児童が集中しやすい 2 時間目という貴重な時間をリレー講座に充ててくれていることは大変嬉しく感じる。
- ・前教育長が長く務めていらっしゃる中で中学生の派遣にも同行され、ともに平和事業を作り上げているという感覚があり、非常に頼もしかった。現教育長にも是非、市民会議にお越しいただき、委員の思いを感じていただける機会があれば良いと思う。
- ・高校一年生の時からリレー講座の講師を務めており、自身の通う高校でも歴史の授業でリレー講座を実演したことがある。クラスメイトから、「このような授業は初めてで驚いた」という感想や、難しい話ばかりではなくグループワークを取り入れているのが好評で、リレー講座の大切さ、素晴らしさを再確認した。小学生にとって良い経験になり、自身はリレー講座を受けたことがきっかけで派遣団になろうと決めた。講師の立場としても、改めて平和について考える機会になる良い取り組みだと思うので、今後もぜひ続けていきたいと思っている。
- ・保護者として、リレー講座のことは年間行事表で目にしたことがある程度だった。例えば、授業の様子を動画で撮り、クラス内限定で保護者にも公開するなどして、親子で対話ができるような工夫ができれば良いかと思う。
- ・コロナの影響で委員は参加が出来ないこともあるので、市民会議が終わった後に授業の映像を見ることを検討しても良いのではないかと。
⇒(事務局) 映像には児童が写っているため広い範囲での公開はできないが、市民会議の中での共有は可能であるため、検討させていただく。

(3) 平和の集い

【事務局】

令和 3 年度の平和の集いの実施予定について説明した。

【委員からの意見】

なし

(4) 平和祈念式典及び手賀沼とうろう流し

【事務局】

- ・我孫子市平和祈念式典と「原爆に関する写真と平和祈念の折り鶴展」の実施予定について説明し、準備・運営への協力を依頼した。
- ・我孫子市平和祈念式典の司会を募り、立候補により原委員と早乙女委員に決定した。
- ・手賀沼とうろう流しの実施予定について説明し、詳細や役割分担は次回の会議で決定することとした。

【委員からの意見】

なし

7 その他

- ・第2回会議日程について

【事務局】

次回の会議を7月18日～8月1日の土曜日又は日曜日に開催することとし、メールで日程調整を行うことを説明した。

8 閉会・写真撮影

以上

「国際青年平和フォーラム」概要報告

平成 28 年度の長崎派遣の時の、青少年ピースフォーラム参加経験者ということで、今回のフォーラムに参加することとなった。

第 1 部では、キャサリン・サリバン博士の基調講演、第 2 部では平和活動の取り組みの発表と、3 グループに分かれての意見交換、長崎市に望む平和活動の提言を行った。

第 1 部での講演では、博士は軍縮教育に 20 年以上携わっている方で、理論的観点から核問題や平和についての説明があった。自分たちが行っているリレー講座などの取り組みは、気持ちを伝えるという側面があるものだが、博士は科学的、物理的観点からの説明であった。

第 2 部の平和活動の取り組み発表では、私たち市民会議が携わっている平和の取り組みとして、我孫子市平和祈念式典、平和の集い、リレー講座を中心に紹介した。参加者は、日本人では長崎と広島出身がほとんどで、そのほかに外国の方でマレーシアの方などがいた。長崎・広島出身の方ほとんどだったので、「被爆地から遠く離れた場所であっても、我孫子市で平和活動に盛んに行われていることはとても素晴らしい」、「率直に嬉しい」という意見をいただいて、ありがたいことだと感じた。

グループ学習では 3 グループに分かれて意見交換と提言を行い、言語を超えた活発な議論をすることができた。

議論の詳しい内容については、別紙資料③に個人意見書としてまとめているので、後程、詳しく見ていただければと思う。意見交換会では、今の生活は平和かどうか、ということと、平和だと思う人はその理由、そうでない人はどのような理由から、そう判断したのかということとを、一人一人発表した。マレーシアの参加者の方が、インスタグラムを使って 100 人ほどにアンケートをとった結果などを発表していたのを受けて、私もより意欲的に活動したいと感じたと同時に、周りの人がどのように考えているのかも考えていきたいというように、刺激を受ける機会が多くあった。

意見の中では、私たち市民会議が行っているような活動もあれば、イベントだったり、ファッションブランドの設立だったり、規模が大きい、面白い切り口から平和を考えようという提言もあった。

私たちは B グループで、ソーシャルメディアを利用した平和活動ということとを長崎市に提言した。インスタグラムなどを使って、視覚的にどのようなことが起きていたのかを訴えかけるというのが、現代では入りやすい切り口なのではと考えた。

私たち市民会議の活動では、リレー講座など市民の方々が平和を考える機会がとても多くあるというふうを感じる。しかしながら、広島、長崎の出身の方に聞くと、広島市から少し離れてると、同じ広島県内なのに全く平和活動がされていないと言われ、驚いた。広島、長崎が唯一の被爆地であるはずなのに、広島市長崎市から外れた場所に行くと、学校での平和教育の差が歴然としているということを知り、よくないことだなというふうに思った。

平和活動に限らず、勉強やスポーツでも同じことが言えるが、関心を持たないことと、無知であること、そして他人ごと、自分のことを主体として捉えていないということは、平和の観点でとらえると、唯一の被爆国であるという、この事実を風化させる原因になってしまうと考える。より多くの人に平和や戦争について考える機会を設けることが、平和への近道であると考えます。今回の経験をこれからの市民会議での活動で、皆さんと協力したり、個人的にこれから参加しようと考えている平和活動もあるので、様々な場面を使って、活動を広めていければと感じました。